

韓國國立中央圖書館の古醫籍書誌（1）

眞柳 誠

The Bibliography of the Old Medical Books in the National Library of Korea (1)

MAYANAGI Makoto

はじめに

ソウルにある韓國國立中央圖書館は國家圖書館で、日本やアメリカの國會圖書館に該當する。一九二三年設立の朝鮮總督府圖書館を前身とし、一九四五年的解放とともに國立圖書館として新設され、一九四八年に現在の館名になった。總督府圖書館時代は日本でも書籍を大量に購入したため、中央圖書館には和刻本や日本古籍の藏書が相當に多い。一九四五年以降は日本統治時代の他機關の藏書も移管され、現在も日本ほかで古籍を積極的に購入し続けている。目録では『國立中央圖書館 東洋古書目錄』一～六および『同外國古書目錄（中國・日本篇）III』に古籍關聯が著録されるが、一部の書と一九九〇年代後半以降の收藏書は載らない。一方、すでに全藏書のデータベースが完成しており、一〇一五年三月一日段階で約九九三萬タイトルを所蔵し、「うち「古書」と分類された書は一七萬五千弱タイトルと發表される。

同圖書館藏書のデータベース (<http://www.dlibrary.go.kr/WONMUN/Index.jsp>) は充實している。トップページの検索対象選擇欄は最初が「고서（古書）」になつてるので、この選擇で記入欄に書名や著者名を舊漢字ないしハングルで入力すると、所蔵する韓・日・中の古籍を検索できる。検索された書名をクリックすると書誌データ、および一部の解題や画像表示ボタンなどが出てくる。ただし全文の公開画像がある古典籍だけが検索され、かつ分類で検索できないため、所蔵の古醫籍數は正確に分からぬ。検索された書誌データには同音漢字のミスマッチや目録データの省略、難しい漢字のハングル表記がしばしば見うけられる。

當データベースで検索される古籍のすべては全ページの鮮明な画像が公開されており、プリントもできる。ただし韓國語版以外のパソコンでプリントする場合、「地域と言語のオプション」で「Unicode 対應ではないプログラム言語」を韓國語に指定しなければならない。そうすると日本語で動くソフトなどが必ず不具合を起こすため、これを回避する操作は相當に難しつ。

一方、同圖書館が運営する Korean Old and Rare Collection Information System

(<http://www.nl.go.kr/korcis/>) は全韓國所蔵の韓・日・中古籍聯合データベースで、書名・

著者・キーワード等から所蔵先毎の書誌情報が検索できる。本サイトからは同圖書館のほぼ全藏書書誌データにアクセス可能で、データの省略もあまりない。同圖書館専用サイト

でヒットしない公開画像のない文献は當サイトで検索するのがいい。ただし當サイトの古籍には近代以降の活字復刻本や影印本も含まれている。以上は二〇一五年三月段階の情況であり、システムの更新などで變化した場合は當圖書館のトップページ (<http://www.nl.go.kr/nl/index.jsp>) から入る) がわかる。

當圖書館 (201.Bampo-Dong, Seocho-Gu, Seoul. 137-702 KOREA. Tel +82-2-535-4142) の建物は一九八八年の新築で、二〇〇八年の設立六〇周年に大きく擴張していく。ソウル地下鐵二號線の Seocho (瑞草) 駅から約一キロ弱、徒步一〇分ほどで着く。瑞草驛の六番出口から直進し、緩やかな坂を下りながら左に檢察廳、右に最高裁判所を過ぎ、さらに緩やかに上りながら左に瑞草警察署を過ぎ、坂を登り切った少し先の左側にある。近くには韓國科學院もある。

利用には一階にあるIDカードの窗口でパスポート番號などの情報をパソコンで入力し、一回のみか長期利用のカードを發行してもらう。寫眞は不要。鞄類を預けるロッカーの鍵はパスポートか身分證明書と交換で、館内持ち込み物品用の透明袋も貸してくれる。このIDカードを入り口の機械にかざして入館する。古典籍閱覽室は六階にあるが、入つて左側のエレベータが偶數階、右側が奇數階専用なので最初はとまじう。



古典籍の閱覽は原則として代替メディア（画像データベース、マイクロフィルム、コピー本）を利用する。代替メディアがない古典籍は、三日以前に登録番號・書名・冊數を電話 (+82-2-590-0678) ないしファックス (+82-2-590-0712) で聯絡し、平日のみ一日五點以内で原本の閱覽が許可される。古典籍室は月曜から土曜の九時～一八時まで利用できるが、閱覽申請は一七時まで。また第一・第四月曜は全館が休館。以上はすべて無料で、どこの國家圖書館とは違う。土曜は原本不可で、マイクロフィルムなどの閱覽とプリントだけが利用できる。隣の建物一階にある食堂は晝と夜の定食が三五〇〇ウォン（約三五〇圓）ほどで、レベルは普通というしかない。

本調査は二〇〇三年一一月二一〇日、二〇〇四年八月七日～八月二四日、および二〇〇八年八月八日～九月二五日に實施した。多くの古典籍を閲覽させていただいた韓國國立

中央圖書館、および古典籍室諸氏のご厚意に深甚の謝意を申し上げる。

凡例

一 本調査では『國立中央圖書館 東洋古書目錄』一（ソウル・同館刊、一九七〇。『韓圖東古一』と略）・同二（一九七一。『同上二』と略）・同三（一九七二。『同上三』と略）・同四（一九七三。『同上四』と略）・同五（一九八〇。『同上五』と略）・同六（一九九四。『同上六』と略）・『國立中央圖書館所藏 外國古書目錄（中國・日本篇）』（一九七八。『韓圖外古III』と略）、および同館藏書データベースに著録の韓・中・日古醫籍を対象とした。さらに日本の宮内廳書陵部などが所蔵する朝鮮版のマイクロフィルムを同館は收藏しており、これらも調査対象とした。

二 本報告は韓籍・漢籍・和籍に大別した。韓國の準漢籍は韓籍に、日本の準漢籍と準韓籍は和籍に配した。漢字は特殊な文字を除き、JISコード漢字の範囲内で正字に統一した。このため、一部の漢字は必ずしも正確な正字ではない。細字の原文を引用する場合は「」内に入れた。

三 韓籍と漢籍は、成書ないし複刻・複寫を含む刊寫年が一九四五年以前の書を対象とした。和籍は成書が一九世紀以前、ないし複刻・複寫を含む刊寫年が一九四五年以前の書を対象とした。同一版本は原則として代表の一書を調査するに止めた。韓籍・漢籍で成書ないし複刻・複寫を含む刊寫年が一九一一年から一九四五年の書は、一部を除いてデータベースの記載を轉記するに止め、同一版本は代表の一書を轉記した。本調査時はデータベースで三六八點を検出できたが、上記の定義に合致する韓・日・中の古醫籍藏書はおそらく五〇〇點を超えるだろう。

四 同館目錄は古醫籍を「博物・本草・醫家・鍼灸」、ないし「理學・醫學」の分類内に括著録する。本報告では「裁判」に分類される法醫學書も含め、假に【法醫學】のように細分した。諸分野の拔抄からなる書は、その主要を占める分野に配した。各分類内では成書年代・内容相關・刊寫年代を考慮して配列した。

五 本報告は、まず當館データベースの書誌著録を太字で記した。書誌情報のうち、標題・著作者・版本事項・發行事項・物理形狀・注記事項を整理して記し、各冊の目次別葉數は割愛、韓國書誌用語はそのまま轉載した。誤字等で修正可能な場合は修正字句を（→〇〇）のように附記したが、根據不足の場合はそのままにした。調査を割愛した書は、以上の目録やデータベースの著録のみ轉載した。

六 五の著録以下に目錄所載頁を記し、複数の目錄で重複記載する書は（）内に重複する目錄の頁を記した。さらに當館の登録番號を記した。ついで三木榮『朝鮮醫書誌』（學術圖書刊行會・思文閣出版、一九七三）の著録番號により、朝鮮固有醫書は「三木朝一二三」、中國醫書朝鮮版は「三木中一二三」、醫藥關係朝鮮本は「三木關一二三」、朝鮮醫書日本版は「三木日一二三」、參照すべき書は「三木朝一二三參」、未著録書は「三木未著録」のように併記した。

七 改行して始まる文は眞柳の調査部分で、データベースの著録に補足ないし訂正すべき事項を、原本・コピー本および画像データベースに基づき記入した。調査記録は主に以下

の内容と順次で記載した。

冊數、帙の有無、裝釘法、表紙の質、書の寸法、外題・書根の記載等の外觀。

次に書物の各葉を順に開いて分かる情報として、封面、序文の年・作者・タイトル・葉數、目錄等の葉數、刊記等、本文卷頭に記載の内題・著編注者等、本文の卷數、跋文の年・作者・タイトル・葉數、刊記・木記・奥附など。

次に全體の情報として、料紙、補修の様子、界の有無、匡郭・版心魚尾の種類、版心内の文字、卷一冒頭半葉匡郭の内側寸法、行數と毎行の字詰め、小字の字詰めなど。

次に全書に捺された藏印記を列記したが、判讀に疑問が殘る文字には（？）を附記した。さらに當該書全體の蟲損状態等の現狀を記した。

最後に改行し、特徵的な内容、眞柳の私見、および目錄記載の問題などを記した。

所藏貴重書の同館解説

東醫寶鑑 二五冊 財寶・第1085-1號

許浚著、一六一三（光海君五）年刊行、内醫院字本。宣祖～光海年間の名醫・許浚が、王命に従い内醫院で刊行した書。韓國人の體質に合わせて處方された醫書で、韓醫學の宗主國である中國まで廣く紹介された名著。

諺解胎產集要 一冊 財寶・第1088-1號

許浚撰、一六〇八（宣祖四一）年刊行、内醫院字本。許浚が王命を受け編纂・刊行した産婦人科系統の醫書。一四三四年に盧重禮が編纂した『胎產要錄』を改編・諺解した書で、國語史・韓醫學史料として價値が高い。

韓籍部

【醫史料】

醫科榜目（自燕山君四年、至高王一一年） 二卷一冊。古活字本（木活字）、三三・四×二二・一cm。四周單邊、半郭二五・二×一七・八cm、五行三三字、註雙行、上黑魚尾。韓圖東古一・一一四頁、古朝26-19、三木關七四。

活字版二冊、錦布貼り一帙に收める。朝鮮五鍼眼原裝、黃色厚手押目紋様表紙。書高三・五×幅二二・〇cm。外題は四周雙邊の題箋に「醫科榜目 一（二）」を印刷。書根の記載なし。序・目錄なし。本文卷首に「醫科榜目卷一」と題し、以下本文二卷（上六九葉、下五〇葉）。一卷冒頭に「〔弘治十一年／燕山四年〕戊午式年／金 塊子堅 父良璥 工判 尚州／李稱守子均 父 珮同樞 陽城／……」とあるように、弘治十一年・燕山四

醫科榜目卷一

弘治十四年
燕山四年

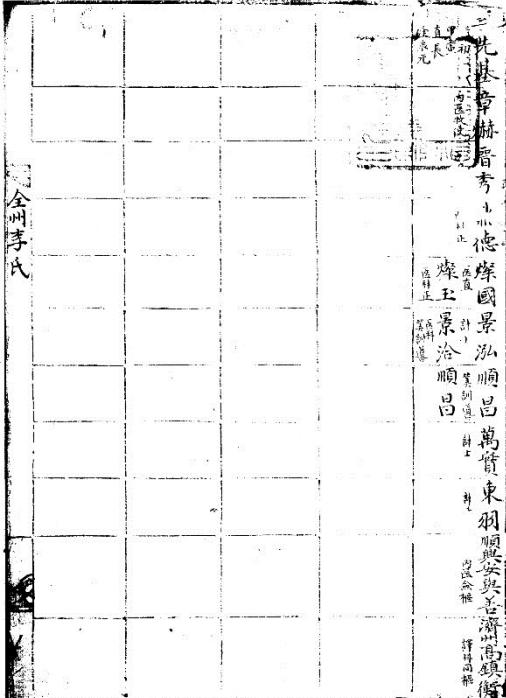
戊午式年

金塊	子堅	父良徵工判	尚州
李種守	子均	父珙同樞	陽城
申承孫	世保	父繼童	平山
黃世亨	泰耳	父事通司正	長水

行。識語・書き入れ等なし。藏印記は「朝鮮總督／府圖書館／藏書之印」「古朝／26／19」、また圓印で外周に「朝鮮總督府圖書館・圖書登錄番號」中央に「昭和3・10・20／古3836」の舊藏印記、「朝／26／19」の舊藏書票あり。やや蟲損し、やや大きな鼠損あり。一部に版心切れ。

朝鮮醫史研究に貴重な書。

醫等第譜 1111張。筆寫本（稿本）、1111・○×1111・五畳。韓圖東古1・八七一頁、古朝68-11、三木關七六。



寫本一冊、錦布貼り帙に收める。朝鮮五鍼眼原裝、黃色中手押目紋樣表紙、絲切れ。書高三六・○×幅一三・

五cm。外題は表紙に「醫等第譜」を墨書。書根の記載なし。序・目錄なし。

内題・編者名なく、本文のみ記す。全州李氏・星州李氏・玄風郭氏まで一葉に一氏を記録し、全三三葉。各氏につき、一族各々の名・役職・任官?・干支を列記する。跋なし。料紙は朝鮮中

葉楮紙に整版印刷した稿紙で、一部は界線を墨書し、僅かに黃變。有界、四周單邊、白口・内向雙花魚尾、象鼻に「星州李氏」等を寫し、葉次等はない。每半葉匡郭、縱一八・八×横二〇・八cm、行數・字數は求め難い。識語・書き入れ等なし。「古朝／68／11」、「朝鮮總督／府圖書館／藏書之印」、また圓印で外周に「朝鮮總督府圖書館・圖書登錄番號」中央に「昭和3・2・10／古2508」の舊藏印記、「朝／68／11」の舊藏書票あり。

表紙の蟲損大。

李氏朝鮮の政府文書か。朝鮮醫史の研究に有用な書。

年（一四九八）から一卷末尾の同治三年・當寧（太王、高宗）一一年（一八七四）まで、式年および醫科考試及第者の姓名・家族・出身地等を記録する。料紙は柔らかな朝鮮中葉楮紙で、やや黃變する。有界、四周單邊、白口・單黑魚尾、象鼻に「醫科榜目」、魚尾下間に「卷一（11）葉次」を印す。每半葉匡郭、縱一五・○×横一八・七cm、六行・行約三二字、小字三

審藥事例 七六張。典醫監編。筆寫本、二二一・四×一一一・〇cm。韓圖東古一・八七三
頁、古朝 68-36、二木未著錄。

朝鮮寫本一冊、錦布貼り帙に收める。

朝鮮五鍼眼原裝、黃色中手押目紋樣表 紙、絲替え。書高三三三・四×幅二二一・〇 cm。外題は表紙に「審藥事例 單」を墨 書。書根の記載なし。丙辰年九月の無名 氏「完議」一葉あつて「審藥之房料布及 例棒」の前後事例を輯成したと記す。目 錄・内題・編者名なし。本文卷首は「慶 尚監營 二月令封餘邑」〔二月大令 四月 小令 五六月小令／七八月小令 十月大 令 臘月小令〕」と書き出し、各地毎の元蔘（人參？）分量（價格？）と合計を子細に記 す。以後は蓼・草・紙魚について記すが、臘令では穀物・魚・鹽・油・燃料・紙・筆・墨 なども記録する。途中に「癸未七月日、因內醫院關申飭、貢蓼各邑關文」あつて、人參關 聯の事件と對應が詳細に記録される。また「道光三年三月日鏡城府 進上鹿茸代錢 節目 癸未」も詳細に記される。末尾は「濟州 翌年七月受料」で食料や生活用品の分量が記さ れる。跋なし。料紙は朝鮮厚葉楮紙で黃變なし。無界、無邊、白口・無魚尾、版心記載な し。每半葉、一一行・行約二五字、小字雙行。書き入れ、識語なし。「古朝／68／36」
合一百九十二兩四錢二分
合一百九十三兩八錢八分
合一百六十八兩七錢八分
合一百七十三兩七錢八分
合一百七十五兩一錢二分
合一百六十四兩四錢六分
合九十八兩三錢
合一百三兩三錢
小令 五六月小令／七八月小令 十月大 令 臘月小令」

文中の道光三年からすると、序の丙辰は一八五六年。當時の政府醫療關聯機關の運營と
経費が記された史料で興味深い。

病樵漫錄 二卷二冊。金命喜傳。哲宗一〇（一八五八）筆寫本、一四・七×一七・〇cm。裝
訂、無紋黃色厚楮表紙、土紅絲綴。韓貴古朝 45 가 245、二木未著錄。

貴重書につきコピービ本二冊での調
査。朝鮮四鍼眼裝、表紙未詳。書高幅
未詳。外題は四周雙邊の題箋に「病樵
漫錄」を墨書。書脳に「共二」を墨
書。序・目錄なし。本文卷首に「病樵
漫錄／戊午集 上」と題し、以下本文
は「元日東石友／月正元旦……」と書
き出す一種の漢文日記で、「次韵石
友」等と題する詩が特に多い。病情・



醫藥の内容もあり、第一冊は「小畫日立秋雨」まで。第二冊も「病樵漫錄／戊午集 下」と題し、「新秋吉日」から「夜寒灸杯」「除日」までで、一部に醫藥の話題もある。料紙未詳。無界、無邊、白口・無魚尾、版心記載なし。每半葉、一〇行・行二〇字。書き入れ、識語なし。「朝鮮總督／府圖書館／藏書之印」「〔疎開／圖書〕第377號」、また圓印で外周に「朝鮮總督府圖書館・圖書登錄番號」中央に「昭和8・11・15／古10171」の舊藏印記、「朝／45／古245」の藏書票あり。蟲損未詳。

恐らく醫官の日記で、全文の釋讀が必要だが、朝鮮醫史には貴重史料だろう。目録にいう「金命喜傳」に關聯の記載は見出せなかつた。

平壤醫學講習所一覽 一〇張・寫眞。平壤醫學講習所編。

一一一・八×一六・八cm。韓圖東古二・八七五頁、**한국 68-54**、三木未著錄。

平壤醫學講習所の寫眞一〇枚を貼り、各々に題（一部片假名）を記したアルバム。總督府圖書館舊藏。あるいは貴重史料か。

【醫經】

黃帝內經素問大要 四卷一冊。高保衡等著。一九〇六古活字本（後期木活字）、一七・一×一九・一cm。四周雙邊、半郭一〇・八×一五・三、一〇行二〇字、註雙行、内向一葉花紋魚尾。李圭暎題、闕逢執徐（一九〇四）年。李鍾淳識、柔兆敦牂（一九〇六）年。韓圖東古一・八七二頁、**한국 68-21**、三木朝一五〇。

黃帝內經素問大要卷之一

上古天真論第一

皆在黃帝生而神靈弱而能言幼而徇齊長而敦敏成而登天也

迺聞於天師曰余聞上古之人春秋皆度百歲而動作不衰今時之人年半百而動作皆寒者時世異邪

人將失之邪天師岐伯

岐伯對曰上古之人其知道者法於陰陽和於術數

飲食有節起居有常不妄作勞故能形與神俱而盡

終其天年度百歲乃去今時之人不然也以酒爲漿

本文四卷。「素問附說」一六葉を附し、書末に柔兆敦牂（丙午、一九〇六）年の李鍾淳

「素問大要後識」一葉あつて、末尾に「光武丙午初夏／密陽琴川新刊」の木記、また正誤表一葉あり。料紙は朝鮮中葉楮紙で僅かに黃變、染みあり。有界、四周雙邊、白口・雙内向花魚尾、魚尾間に「素問卷幾 葉次」を印す。每半葉匡郭、縱二一・八×横一六・〇

cm、一〇行・行二〇字、小字雙行・行二〇字。拙い木活字。識語・書き入れ等なし。「古朝／68／21」「朝鮮總督／府圖書館／藏書之印」、また圓印で外周に「朝鮮總督府圖書

朝／68／21」「朝鮮總督／府圖書館／藏書之印」、また圓印で外周に「朝鮮總督府圖書

館・圖書登録番號」中央に「昭和3・9・10／古3521」の舊藏印記、「朝／68／21」の舊藏書票あり。蟲損なし。

『素問』の一五篇につき、大要の條文を抜粹し、一部に注を加えた李圭暎（一八五五～一九二三）の著述。朝鮮時代の『素問』研究書は本書および『素問句讀俗解』（ソウル大奎章閣）の一點を發見した。本書には五巻本の寫本もあり、刊本より一巻多い。『中華醫史雜誌』四一卷二期（一一〇一）に一九二一年寫本に基づく錢超塵氏の報文あつて、『素問』『靈樞』の一五篇について注するといふ。李圭暎には『醫鑑重磨』六巻（一九〇六）の著もある。

【運氣・醫論】

草堂遺訣 九九張・挿圖。尹草堂著。筆寫本、111・7×17・○cm。無界、10行14字、無魚尾。運氣衍（→行）論序、嵩禎（崇貞）再乙巳（一七一五）……草堂道人（號）。序、歲丙辰（一七三六）……淡窩（號）。韓圖東古一・八七六頁、한국 68-74、三木朝八九參。

朝鮮寫本一冊、錦布貼り帙に收める。朝鮮四鍼眼原裝（鍼眼の位置は中國式）、香色中手表紙、角布附き、絲切れ。書高133・5×幅16・9cm。表紙に外題「草堂遺訣全」、書根に「艸堂」を墨書。書頭に「草堂遺訣卷之單」と題し、崇貞再乙巳（一七二五）年の草堂道人「運氣行論序」一葉、丙辰（一七三六）年の淡窩跋一葉（著者は尹子美と記す）あり。目錄なし。本文は不分巻一冊、全冊計九四葉。料紙は朝鮮薄葉楮紙で僅かに黃變。無界、無邊、白口・無魚尾、版心の記載なし。每半葉、一〇行・行14字、小字雙行・行14字。書き入れ、識語なし。「古朝／68／74」「朝鮮總督／府圖書館／藏書之印」、また圓印で外周に「朝鮮總督府圖書館・圖書登録番號」中央に「昭和16・2・5／古1897」の舊藏印記、「朝／68／74」の舊藏書票あり。表紙のみ蟲損（蟲は表紙を食べた段階で死亡している）。

運氣醫學の書で、著者は尹子美（草堂道人）。一人の筆による丁寧な寫本で、底本は刊本と思われ、一八一九世紀の筆寫かもしれない。三木誌朝八九本『草窗訣』（圓機活方とも）は當本と同系で、英祖元年（一七一五）の成書とする。

三理訣卷之一

京道統說
卷之二

三理訣 二冊。筆寫本、二八・六×一10・○cm。韓圖東古一・八七八頁、한국 68-93、三木未著錄。

朝鮮寫本一冊、錦布貼り帙に收め

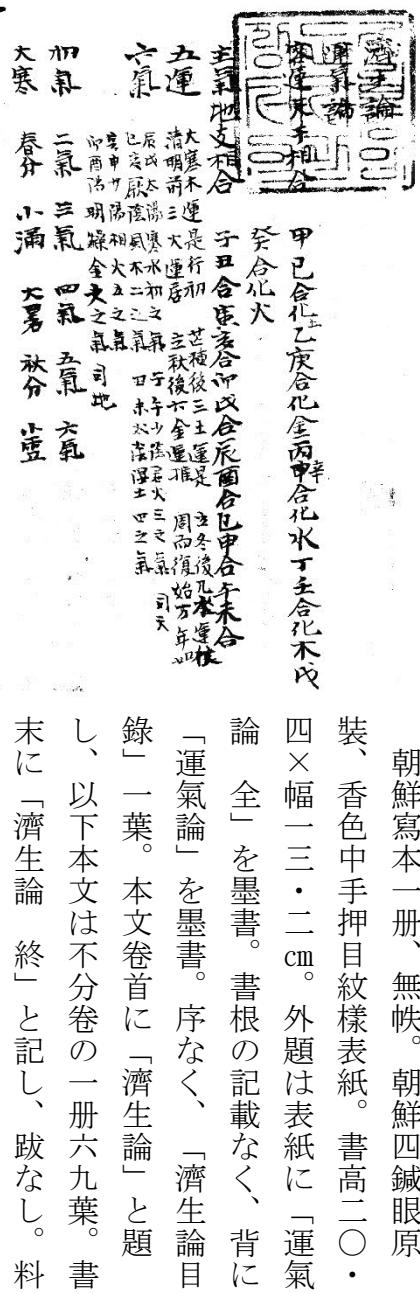
大哉醫字其來遠矣自渾沌既判洪荒始分陽之輕清者以氣而上浮為天陰之重濁者以形而下凝為地天隆然而位乎上地墮然而位乎下於是陽之精者為日東昇西墜陰之精者為月夜現而晝隱兩儀立矣二曜行焉於是玄氣凝空水始生也赤氣炎地之正氣頭圓底天足方家地天有陰陽人有氣血天有五行人有五臟蓋天地之民巢居穴處始毛飲血動作以避其寒陰居以避其暑大朴赤開何病之有迨夫伏羲氏占天望氣而畫卦後世有天元玉冊目為伏羲氏之書者乃鬼變區于世口誦而傳之

記載なし。序・目錄なし。本文卷首に

「三理訣卷之二」と題し、以下本文存二卷まで。卷一は原道統説（纂紺珠經）・天眞節解（素門〔ママ〕首篇）・茹淡論（丹溪格言一篇）・保養説・臟腑總論・臟腑條分・運氣總論・治法（水火分治・標本分治・標本論・求本論……）・脾胃虛實傳變論・觀形察色・聽聲審音・問症・王叔和觀病生死候歌・雜錄（簡略な方論）。卷二は五運のみで、各干支から病理・治法の各論を詳細に列記する。書末に「三理訣卷之二終」とだけ記し、書名からしても、あるいは卷三まであつたか。跋なし。料紙は朝鮮中葉楮紙でやや黃變。無界、無邊、白口・無魚尾、版心記載なし。每半葉、一行・行二五字、小字雙行・行二五字。朱點、朱引き、朱墨筆の書き入れあり。識語なし。「古朝／68／93」「朝鮮總督／府圖書館／藏書之印」、また圓印で外周に「朝鮮總督府圖書館・圖書登錄番號」中央に「昭和17・2・16／古21385」の舊藏印記、「朝／68／93」の舊藏書票あり。蟲損なし。

運氣論による治法の體系的な全書。内容がよく整理され、體裁も整つており、あるいは刊本からの筆寫か。著編者、成書・筆寫年とも未詳だが、前掲の尹子美『草堂遺訣』と關聯するならば一八世紀の成書だろう。半島獨自に發展した大陸にない醫學で、同工異曲が四象醫學かもしだれない。

濟生論 一冊。110・四×111・11cm。表題、運氣論。古7670-20-27、二木未著錄。



朝鮮寫本一冊、無帙。朝鮮四鍼眼原裝、香色中手押目紋様表紙。書高110・

四×幅13・11cm。外題は表紙に「運氣論 全」を墨書。書根の記載なく、背に「運氣論」を墨書。序なく、「濟生論目錄」一葉。本文卷首に「濟生論」と題し、以下本文は不分卷の一冊六九葉。書末に「濟生論 終」と記し、跋なし。料紙は朝鮮中葉楮紙で。無界、無邊、白

口・無魚尾、版心上部に葉次を記入する。版心切れ。每半葉、10行・行二七字、小字雙行で、末葉に當柎目を墨書した紙を夾む。識語・書き入れ等なし。「古 朝 주 앙／도서관／장서인」（國立中央／圖書館／藏書印）」「古 7670／20」および中央圖書館の圓印で中央に「1999·5·10／85629」の藏印記。蟲損なし。

運氣論に基づく治法の書で、舊題は「濟生論」だろう。恐らく刊本に基づく。古びが一切なく、二〇世紀中葉の筆寫か。現存中國書で書名に運氣論があるのは『運氣論奧』關聯書のみで別内容。清・何鎮（培元）撰『何氏濟生論』八卷（清嘉慶二年京江庄孝容靜觀堂刊本）もあるが、卷數が合わない。すると當本の底本は韓籍だろう。奎章閣の古615.135-j489本は卷首に「濟瘡篇 運氣總論」と題する。前々掲書と後掲書からすると、本書は一八世紀の尹子美と關聯するかもしだれない。

運氣總論 四二三張。筆寫本、一四〇×一三一・七三。冊 7651-10' 木未著錄。

運氣總論

太極肇分而有陰陽。夫陰陽者天地之道也。萬物之
網紀變化之父母生殺之本始神明之府也。

網紀謂生長化成藏收之網紀也。父母謂萬物形

之先也。本始謂生殺皆因而有之也。夫有形無氣

而不為五運陰陽之所攝者未之有也。所以造化

不極能為萬物先化之元始者何也？以其是神明

之育故也。合散不測生化無窮非神明無能也。

故物生謂之化物極謂之變。陰陽不測謂之神然天

地者萬物之上下也。左右者陰陽之道路也。水火者陰

陽。後北也。水熱金木者生成之終也。全生陰陽五行

流篇十干五化之運。寒暑燥濕風火之氣周流天地。

葉楮紙で、やや黃變して疲れ。無界、無邊、白口・無魚尾、版心記載なし。每半葉、一二

行・行二〇字、小字雙行。識語・書き入れ等なし。「冊 7651-10」「한국서관／도서관／장서」（國立中央／圖書館／藏書印）および中央圖書館の圓印で中央に「1999・2・

18／84302」の藏印記。蟲損なし。

運氣論および計算法の概説書で、刊本に基づく抜寫だろう。ウヨブヂータは書名を「運氣總論」と著錄するが、「運氣論 附算法」が適切。奎章閣の古 615.135-j489 本は卷首に「濟瘡篇 運氣總論」と題し、「濟瘡」は前掲書の「濟生」と類似する。これらは同系の書かもしだれない。

〔圖解〕運氣學講義錄 一冊八二一張。金海秀著。昭和二（一九一八）京城・公認醫學講習院

鉛活字本、一六〇×一八〇cm。四周單邊、半郭一八・一〇×一三・〇cm、有界、一〇行二二字、註雙行、上黑二字、註雙行、上下向黑魚尾。古 7651-4' 木未著錄。

實見したが書誌調査は割愛。漢字・ハングル交じりの運氣論書。一部で醫方に言及する。著者の寫眞扉あり。

藥言寶典 一冊一九張。呂洞賓著、朴仁鎮訂。高宗一（一八七四）木板覆刻本、一八・七×一九・一三cm。四周單邊、半郭一八・一〇×一三・〇cm、有界、一〇行二二字、註雙行、上黑魚尾。序、呂洞賓。古 2516-35' 木未著錄。

朝鮮整版一冊、錦布貼り帙に收める。朝鮮五鍼眼原裝、黃色中手押目紋様表紙。書高一八・九×幅一九・二cm。外題は表紙に「藥言寶典」を墨書。書根の記載なし。見返し四周雙邊で「朴眞公先生鑑定／藥言寶典／留還堂藏板」、上欄に「諸惡莫作衆善奉行」の封面。無記年の鍾祖師「序」一葉、無記年の呂洞賓「序」一葉あつて、呂序の末尾に朴眞公

朝鮮寫本一冊、無帙。朝鮮五鍼眼原裝、香色中手表紙。書高一三・八×幅二

二・八cm。外題は表紙に「附算法／運氣論」を墨書。書根の記載なし。序・目錄

なし。本文卷首に「運氣總論」と題し、以下本文は漢文で頭書文および小字雙行の割注と低一格文が交互に記され、不分卷。「論日刻第八」「論五天氣第十一」などの篇が一部順不同で記され、「醫學入門」からの引用もある。その後に安止參の「算法序」あつて一卷本を刊行するという。書中には圖示多く、書末に「逆一順圖」あり。跋なし。料紙は朝鮮中

藥言寶典卷上

河南呂祖師洞賓純陽子誤
密陽朴眞公仁鎮善度氏訂

勸孝章第一

世人之善莫大於孝。不善莫大於不孝。誠恩人子墮地時。
口舌難言。手足難動。無識無知。爲之含哺懷抱。體察飢寒。
萬情千憐。非親而誰也。則親之耳。聾眼暗。齒落筋衰。步履
艱難。之日。回想從前。當孝乎。不當孝乎。再思襁褓時。患瘡
患瘍。遺矢遺溺。與死爲鄰。爲之撫摩調治。推乾就濕。萬痛
千癢。非親而誰也。則親之疾病龍鍾。淹縕牀第。宛轉呻吟。

襄音寶典 卷上

郭、縱一七・九×横一三・五cm、一〇

行・行二三字、小字雙行・行二三字。識語・書き入れ等なし。「孝百行源／淫萬惡首」
「국립중앙／도서관／장서인」(國立中央圖書館藏書印)」「古／2516／35／」および中央
圖書館の圓印で中央に「1981・10・31／48588」の藏印記など。「朝鮮總督／府圖書館／
藏書之印」「〔朝鮮總督府／警務局〕寄贈本」「編輯局保管(消印)」「朝鮮總／督府圖
／書之印(消印)」「學部／圖書(消印)」「朝鮮總督府保轉本」、また圓印で外周に
「朝鮮總督府圖書館・圖書登錄番號」中央に「昭和・・／古」の舊藏印記、「朝鮮總督府
圖書／番號丙／冊數」「朝鮮總督府圖書／記番號III／冊數」の舊藏書票あり。蟲損、版
心切れ。

醫藥書ではないが、一六篇にわたり主に儒學の面から人倫の「藥言」を述べる書。呂序
の話は『禪本草』に似る。目録に記す覆刻の記述は當本に見えないが、古びなく確かに一
九世紀末の刊本。

【經脈・經穴・鍼灸】

銅人經 一冊。高宗一三(一八八六)筆寫本、一四・三×一五・一cm。四周單邊、半郭一九・
六×一三・三cm、九行一九字、註雙行。刊記、丙戌(一八八六)六月初一日始書七月十四日
畢書。卷末題、新刊補註銅人腧穴鍼灸圖經卷五終。面紙題、銅人經。BA7670-21-12、三木未
著錄。

朝鮮寫本一冊、無帙。朝鮮五鍼眼原裝、黒色厚手表紙。書高一四・三×幅一五・三cm。
外題は表紙に「銅人經」の墨書がかるうじて見える。書根の記載なし。扉に「銅人經 合
付」の墨書。序なし。書頭に「偃伏頭部中行凡一十六穴」「偃伏第二行左右凡一十四穴」
「偃伏第三行左右凡一十二穴」「側頭部左右行凡二十四穴」「正面中行凡六十穴」「面部
第二行左右凡一十六穴」「面部第三行左右凡一十穴」「面部第四行左右凡八穴」「側面部左
右凡一十六穴」の目録あつて、以下は頭面部の各經穴について部位・主治・鍼灸量を記す
(以上は五巻本『新刊補註銅人腧穴鍼灸圖經』卷三の抜粹)。同様に肩・背・腹・脇の體
幹部經穴、五臟の井榮俞經合穴、手では肺經左右一八穴・大腸經左右二八穴・心經左右一

(仁鎮)の子・永壽が甲戌中秋に本書を
刊行する旨を記す。目録なし。本文卷首
に「藥言寶典卷上／河南呂祖師洞賓純陽
子譏／密陽朴眞公仁鎮善度氏訂」と題
し、以下本文二卷。書末に「藥言寶典流
通之法」一葉を附し、跋なし。料紙は朝
鮮中葉楮紙。有界、四周單邊、白口・單
黑魚尾、象鼻に「藥言寶典」、魚尾下に
「卷上(下) 葉次」を刻す。每半葉匡

子譏／密陽朴眞公仁鎮善度氏訂」と題
し、以下本文二卷。書末に「藥言寶典流
通之法」一葉を附し、跋なし。料紙は朝
鮮中葉楮紙。有界、四周單邊、白口・單
黑魚尾、象鼻に「藥言寶典」、魚尾下に
「卷上(下) 葉次」を刻す。每半葉匡

八穴・小腸經左右一六穴・心經左右一六穴・三焦經左右二四穴、同様に足の經脈についても記す。「新刊補注銅人臉穴鍼灸圖經卷五終／丙戌六月初一日始書七月十四日畢書」の識語あり、また「折量法（取穴ランドマーク間の尺寸）」一葉半あり。跋なし。料紙は朝鮮中葉楮紙に墨書した稿紙で、濡れ黄ばむ。有界、四周單邊、白口・無魚尾、版心の記載なし。毎半葉匡郭、縱一九・七×横一三・五cm、九行・行一九字、小字なし。書き入れなし。「古7670／21」「국립중앙도서관／장서인」（國立中央／圖書館／藏書印）」および中央圖書館の圓印で中央に「1999・5・10／85630」の藏印記あり。蟲損なし。

經脉・經穴の書。丁寧な寫本だが、底本とした『新刊補注銅人臉穴鍼灸圖經』五巻本の順次に必ずしも忠實ではない。一行の字詰めが古768-1ほかの朝鮮版『新刊補註銅人臉穴鍼灸圖經』と同じなので、朝鮮版によるのだろう。古びからすると筆寫の識語年は目錄が推測の一八八六年より六〇年遡つてもいいのではなかろうか。

鍼經要訣 三三三張。柳成龍著 木板本 110・九×111・113 序 萬曆庚子（一六〇〇）……

西厓（柳成龍）。韓圖東古一・八七八頁、한국朝 68-102、木朝六一。

朝鮮整版一冊、帙なし。韓國五鍼眼改裝、香色中手新表紙一枚の下に香色舊表紙を存す。書高三〇・〇×幅二三・三cm。外題は新表紙二枚に「鍼經要訣 完」、舊表紙に「活人經」を墨書。書根の記載は裏打ちで不明。萬曆庚子年（一六〇〇）の西厓序一葉を存し、目錄ほかなし。元來相當に破損・汚損しており、前半ほかに缺葉や亂葉があるらしい。現在の内容は、主要穴主治の歌訣半葉、明堂正面・背面圖・臟腑圖說二葉、先天圖說一葉、天地人物氣候相應說圖二葉、十二經・奇經の「穴處・治法」および各種灸法などで第三三葉才モテまで存。跋なし。料紙は著しく黃變した朝鮮中葉楮紙で、朝鮮中葉楮紙で總裏打ちする。有界、四周單（雙）邊、白口・雙内向花魚尾、魚尾間に「鍼經要訣 葉次」を刻す。「天地人物氣候相應說」の半葉匡郭は、縱二二・五×横一七・一cm、一〇行・行一九字、小字雙行。一部に墨筆の書き込みあり、識語なし。「龍齋／家寶」「古朝／68／102」「朝鮮總督／府圖書館／藏書之丘」、また圓印で外周に「朝鮮總督府圖書館・圖書登録番號」中央に「昭和17・10・5／古23532」の舊藏印記、「朝／68／102」の舊藏書票あり。

簡便な經穴・鍼灸の書。相當の大版で序文の一六〇〇年版かとも思われるが、刻字は當時の内醫院刊本には遠く及ばず、一九〇一〇世紀の民間刊本にも見える。三木朝六一に著錄の初刊本は一一行・行一九字で稍異なり、光武五年（一九〇一）重刊本は書名を「鍼灸要訣」に作り、行款も一一行・行二三字と異なる。ただ一九〇一〇世紀の民間刊本にこのような大本は見たことがないので、やはり一六〇〇年序刊本かもしれない。序者の西厓は柳成龍（一五四二～一六〇七）の號で、宣祖時代の宰相だった。古768-3の『鍼灸秘書』は編成からすると本書に基づくよに思える。

一九・六cm。四周雙邊、半郭11・四×1五・九cm。有界、行字數不定、上下向1葉花紋魚尾。序、萬曆庚子（一六〇〇）西厓道人（柳成龍）于河村曲肱齋。韓圖東古一・八七二頁、
한고조 68-30、三木朝六一參。

石印本一冊、錦布貼り帙に收める。朝鮮五鍼眼原裝、黃色中手押目紋様表紙。書高1
七・五×幅一九・二cm。外題は表紙に「鍼灸要訣 全」を墨書。書根の記載なし。萬曆庚
子年の西厓道人「鍼灸要訣序」一葉、目錄一葉。本文卷首に「鍼灸要訣」と題し、以下本
文一卷五四葉。書末に青牛年の（柳）伍榮「鍼灸要訣重印識」半葉あつて、先祖の西厓先
生が醫學入門（他に醫學辨證指南も）に基づき著した本書を影板印布するという。また大
正一四年（一九二五）の印刷・發行の奥附あつて、書寫者の名を記す。料紙は朝鮮中葉楮
紙でやや黃變する。有界、四周雙邊、白口・單花魚尾、一部象鼻に篇名、魚尾下に「鍼灸
要訣」、下象鼻に葉次を印す。毎半葉匡郭、縱二一・五×横一六・七cm、一行・行一九
字、小字雙行。識語・書き入れ等なし。「〔朝鮮總督府／警務局〕／寄贈本」「古朝
／68／30」「朝鮮總督／府圖書館／藏書之印」、あた圓印で外周に「朝鮮總督府圖書館。
圖書登録番號」中央に「昭和4・6・20／凸6342」の舊藏印記、「朝／68／30」の舊藏書
票あり。蟲損なし。

簡便な鍼灸入門書。目錄が著者の西厓道人を柳成龍とするのは前掲書のゆえだらう。

鍼灸秘書 一冊二四張。筆寫本、一八・五×110・五cm。一一行字數不同、無魚尾。韓圖東
古六・七一一页、古768-3、三木未著錄。

鍼灸訣

經穴起止 經徑也經直者為經經之支派傍出者為絡界為十二

竇出一脈離而不交經絡猶人夜行無燭業者不可不熟

/ 手太陰肺經左足太二穴各朝寅時從中府起巡臂下行至少商止

中府在乳上三肋間去雲門下一寸針三分不灸治喉癰滿塞痛面腫呴吐

咳唾濁涕肩背痛腹脹食飲不可

霍門巨齒下氣戶傍二寸禁針灸五壯治吐逆上氣胸脇微背痛不能舉

臂餘上同

天府腋下三寸舉手取之針三分禁灸治泄生日眩癱氣喘逆不食瘡疾率

中寒死形尸餘同中府

俠白天府下去肘五寸灸五壯治咳嗽逆乾逆煩渴心病

又舉火黃芩中計三分治候癰舌乾脹脹腹痛喘氣泄不止癲病身瘡四

中まで朱點、朱引きあり。識語なし。「古768-3」「[凸6342]／도서관／자서집」（國立

中央／圖書館／藏書印）」および中央圖書館の圓印で中央に「1981・10・31／4862」の藏
印記あり。蟲損なし。薄葉パルプ紙に石印された臍腑・正人・側人・伏人の明堂圖が中に
夾まれ、黃變する。

一四經脈・奇經の順に經穴取穴・主治等を述べた經穴概說書で、同內容の別書から轉寫

した書きぶり。本來の書名は内題の「鍼灸訣」かも知れず、前掲の古朝68-102『鍼經要訣』と關聯が疑われる。古びなく、一〇世紀前半の筆寫か。

錄文指南二卷一冊筆寫本二八〇〇一〇〇〇行三字韓圖東古六七

武威二首

卷之三

帝問曰醫之治病也

醫帝問曰醫之治病也一病而治各不同皆愈何也岐伯曰地勢使然也故東方之域天地所始生也魚鹽之地海湧傍水其民食魚而嗜鹹皆安其處美其食氣者便人熱中益者勝血故其民多黑色疎理其病皆為癰癩其治宜砭石故砭石者亦從東方來西方者金玉之咸以石之屬天地之所吸引也其民淡薄而多風水土剛強其民不衣而褐薦其民爭食而嗜肥故邪不能傷其形體其病生於內其治宜毒藥攻毒乘者亦從西方來東方者天地所閉藏之域也其地高陵廣風寒冰冽其民采野處而乳食藏寒生滿病其治宜辛燥故炙燒者亦從北方來南方者天地所長養陽之所感處也其地不水土弱霧露溫之府處也其民嗜淡而食肺故其民多綈理而赤色其

各書より鍼灸治療の基本から臨床を引用した書 同内容の別書から轉寫した書きぶりで
古びなく、二〇世紀前半の筆寫だろう。前掲の古 768-3『鍼灸秘書』と同一の舊藏で、筆
寫底本の成書は一九世紀以前かもしれない。

鍼灸經驗方
一冊。許任著。木板本、二八·九×一九·一cm。四周雙邊、半郭二〇·七×一四·九cm、九行二〇字、注雙行、上黑魚尾。序、許任。李景奭跋、歲甲申（一六四四）。韓圖東古二一·八七六頁、한국서수기(한국서수기) 21·876쪽。

鍼灸經驗方

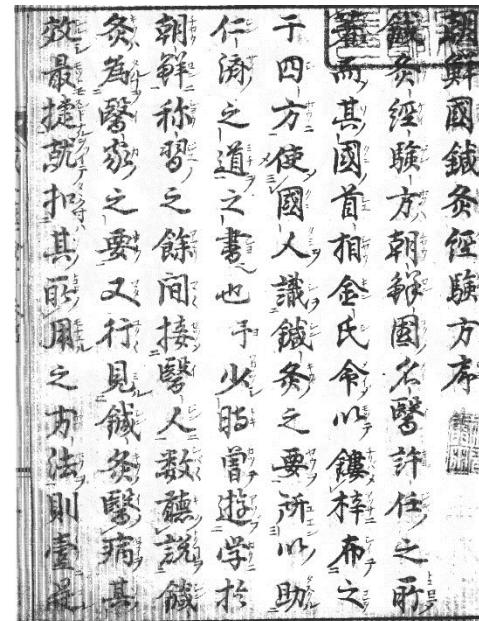
經曰邪之所湊其氣必虛何則凡人疾病皆由於飲食失節酒色過度風寒暑濕乘虛躁入經絡榮衛不行故也治之之法專在於明知其虛必以鍼灸導虛瀉實各調其氣血也觀其面部之色多青則痛在

二二二本による 朝鮮製 表紙に
外題 「鍼灸經驗方」を墨書。目録二
葉。本文卷首に「鍼灸經驗方」を題

黑頭風寒多則筋骨痛熱少則筋緩骨消惡寒而多
色而寒多則筋攣骨痛熱多則筋緩骨消惡寒而多
寒者冷也惡寒而身熱者熱也且頭無冷痛腹無熱
痛凡痛善行數變者風也

(一六四四)の李景奭跋二葉。整版

本料紙不詳、有界、四周雙邊、白口・内向雙黑（花）魚尾、魚尾間に「鍼灸經驗方」葉次」を刻す。毎半葉匡郭、縱二〇・五×横一五・五cm、九行一〇字、小字雙行。識語なく、書き入れ多し。「朝鮮總督／府圖書館／藏書之印」「古朝／68／75」、また圓印で外周に「朝鮮總督府圖書館・圖書登錄番號」中央に「昭和?・?・?（ノ）ピ一不鮮明）／古19559」の舊藏印記、「朝／68／75」の舊藏書票あり。かなり蟲損、破損。
簡便な鍼灸治療の書。字様が明・正統刊本に近似するので、一六四四年の跋刊本で問題なかろう。

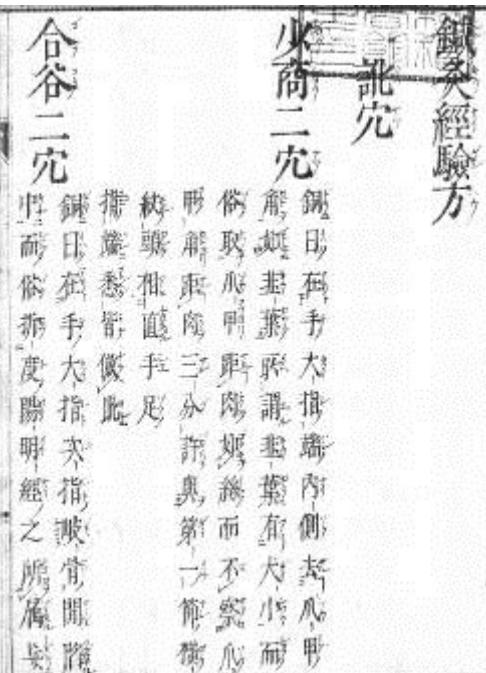


鍼灸經驗方 三卷三冊。許任著 山川鱗校。日本享保十年（一七一五）木板本、二七・一×一九・〇cm。山川淳菴序、享保十年藏在乙巳。序李景奭。序、許任。黨板記、攝州大阪（→坂山川淳菴藏版。刊記、享保十乙巳歲十一月版。韓圖外古III・一七一頁、古7-60-46、二木日二七。

和刻版三冊、無帙。日本四鍼眼原裝、青綠色中手押目紋様表紙、絲替え。書高二七・三×幅一八・九cm。外題は四周雙邊の題箋に

「鍼灸經驗方 上（中・下）」を印刷。書根の記載なし。享保一〇年（一七二五）の山川淳庵「朝鮮國鍼灸經驗方序」二葉（若年時に朝鮮へ留學という）、無記年の李景奭「鍼灸經驗方序」三葉、無記年の許任「鍼灸經驗方序」五葉、目錄二葉。卷首に「鍼灸經驗方」と題し、以下本文三卷。跋なく、書末に享保一〇年（一七二五）の奥附あつて大坂・山川淳庵藏版、同呉服町書林・岡田三郎右衛門の刊を記す。料紙は日本中葉楮紙でやや黃變、濡れ黄ばむ。無界、四周單邊、白口・單花魚尾、魚尾下に「鍼灸經驗方卷上（中・下）篇名」、下象鼻に葉次を刻す。毎半葉匡郭、縱一九・〇×横一五・三cm、六行・行一五字、小字雙行・行一六字。朱墨の書き入れあつて、末尾の鍼灸吉日・避忌月日以外の全漢字に

音・訓のルビを振る。識語なし。「福爾齋印（回文印）」「古7-60-46」「朝鮮總督／府圖書館／藏書之印」、また圓印で外周に「朝鮮總督府圖書館・圖書登錄番號」中央に「昭和13・7・25／古15068」の舊藏印記、「7-60-46」の舊藏書票あり。僅かに蟲損し、鼠損もあり。



簡便な朝鮮鍼灸の治療書。目錄は「山川鱗校」とするが、當本にその記載は見えない。この和刻版には一七八八年の後印本も

ある。

鍼灸経験方 一冊。筆寫本、二九・四×一一・八cm。韓圖東古一・八七九頁、む古朝 68-110' 三木朝七」。

寫本二冊、錦布貼り一帙に收める。朝鮮五鍼眼原裝、香色中手押目紋様表紙。書高一九・五×幅二一・六cm。外題は表紙に「鍼灸法 乾（坤）」を墨書。書根に「一（二）鍼灸法」を墨書。序・目錄なし。本文卷首に「鍼灸経験方」と題し、以下本文一卷。大部分は漢文だが、一部にハングルを交える。經脈と經穴の部位・鍼灸法、取穴法、疾病毎の鍼灸法、鍼灸忌日などを記す。坤冊後半に「鍼灸経験方終」と題する一文あつて、「此方即許大醫任之所著也。……歳甲申（一六四四）四月内醫院……李景奭 詮跋」と記す。また末尾近くに「同治十三年甲戌（一八七四）八月日鑄洞筆書」の墨書あり。料紙は朝鮮中葉楮紙で蒸れ、やや黃變する。無界、無邊、白口・無魚尾、版心の記入なし。每半葉、約一〇行・行二二字、小字雙行。朱點・朱引き、一部に朱筆書き入れあり。識語なし。「古朝／68／110」「朝鮮總督／府圖書館／藏書之印」、また圓印で外周に「朝鮮總督府圖書館・圖書登錄番號」中央に「昭和18・5・5／124836」の舊藏印記、「朝／68／110」の舊藏書票あり。疲れ本。蟲損、版心切れ。

簡便な鍼灸入門治療書。筆寫底本は一六四四年の内醫院刊本。目錄は著者・筆寫者を記さないが、「許任撰、同治一三年（一八七四）鑄洞寫」が適切。

鍼灸経験方 一冊二二一張。許任編。筆寫本、111・11×16・〇cm。無界、行字數不同、無魚尾。表紙書名、鍼經正宗。序、許任。韓圖東古六・七一頁、古768-5' 三木朝七」。

朝鮮寫本一冊、無帙。朝鮮四鍼眼原裝、香色中手押目紋様表紙。書高二一・一×幅一五・九cm。外題は表紙に「三代経験方／鍼經正宗 単」を墨書。書根の記載なし。無記年の許任「経験方序」一葉半、目錄（訛穴／鍼灸擇日）半葉。本文卷首に題署なく、以下本文不分卷一冊。跋なし。料紙は朝鮮薄葉楮紙で、濡れ黄ばむ疲れ本。無界、無邊、白口・無魚尾、版心記入なし。每半葉、一一行・行二〇字、小字雙行・行二〇字。墨點、朱引き、書き入れあり。識語なし。「古768／5」「국립중앙도서관／장서5」（國立中央／圖書館／藏書印）および中央圖書館の圓印で中央に「1984・4・2／53154」の藏印記あります。一部蟲損。

鍼灸の基礎から臨床各論の書。許任『鍼灸経験方』の抜粹だろう。

〔鍼灸神妙方〕 八四張。筆寫本、一一・〇×一九・五cm。12768-22' 三木未著錄。

朝鮮寫本一冊、無帙。朝鮮四鍼眼原裝、栗皮様中手表紙。書高二一・五×幅一〇・〇cm。外題は新題箋に「鍼灸神妙方」を萬年筆書。書根の記載なし。序・目錄・題署ほかなし。前半は病症別に醫方を記し、後半に「鍼灸神妙方」の記載あつて以下に比較的新しい紙に各經穴の取穴・主治、病症の鍼灸治療を記す。不分卷一冊。跋なし。料紙は薄葉と中紙に各經穴の取穴・主治、病症の鍼灸治療を記す。不分卷一冊。跋なし。料紙は薄葉と中

葉の朝鮮楮紙で黄變し、多く版心切れ。無界、無邊、白口・無魚尾、版心記載なし。毎半葉の字數・行數は不定。朱點、朱引き、書き入れ多く、識語なし。「古／768／22」

「국립중앙／도서관／장서인」(國立中央／圖書館／藏書印)」および中央圖書館の圓印で中央に「2002·8·10／105064」の藏印記あり。蟲損ないが疲れ本。

所筆より、前半は一人の醫家が書き足しながら使用していた手控えの書。後半の「鍼灸神妙方」は一時期に書寫している。一八世紀ないし一九世紀の書寫か。

針灸 一五張。安鼎福著 筆寫本、一三一·九×一四·六cm。韓圖東古一·八七一頁、한 古朝 68-

6、三木未著錄。

朝鮮寫本一冊、錦布貼り帙に收める。朝鮮五鍼眼改裝、黃色中手新表紙の下に簡易舊表紙を存する。書高一三一·九×幅一四·四cm。外題は新舊表紙に「針灸」を墨書。書根の記載なし。序・目錄なし。書頭から「長桑君天皇秘訣歌」「馬丹陽天皇十二穴治雜病歌」「千金十一穴歌」「治病十一症歌」があり、書末に「右六句、入門・流注法。不入者、/未知出於何書、更詳之」の注記、および「子午流注法 此見于南城?冊」などを記す。跋なし。料紙は朝鮮薄葉楮紙で、やや黄變する。無界、無邊、白口・無魚尾、版心の記入なし。每半葉、一〇行・字數不定、小字不定。識語ないが、筆寫者の書き入れ多し。「廣□安／鼎福之／□□庵」「[疎開／圖書] 第243號」「朝鮮總督／府圖書館／藏書之印」、また圓印で外周に「朝鮮總督府圖書館・圖書登錄番號」中央に「昭和2·5·21／古1657」の舊藏印記、「朝／68／6」の舊藏書票あり。僅かに蟲損、版心切れ。

『醫學入門』ほかより鍼灸關聯を抄錄した書。한古朝 68-5『醫學入門抄』と同一の所筆・書式で、當本に「安鼎福」と判讀できる舊藏印記あるにつき、ウェブデータベースは安鼎福著とするのだろう。

醫鑑 一冊。筆寫本、一六·〇×一三一·〇cm。韓圖東古五·一一四頁、한구재古 7655-

2、一一木

未著錄。

朝鮮寫本一冊、錦布貼り帙に收める。朝鮮五鍼眼原裝、濛引き厚手表紙。表紙に外題「醫鑑」、ウラ表紙に「醫鑑／華谷廣濟局／花谷廣濟局」を墨書。扉に「庚辰 孟冬／醫鑑針灸」を墨書。序・目錄等なし。卷首に内題・編著者名なく、直接本文。全漢文で不文卷一冊の鍼灸書。跋なし。料紙は朝鮮中葉楮紙、無界、無邊、無魚尾の幅廣版。每半葉、一二〇一四行二四〇一八字、小字雙行。識語・書き入れ等なし。「7655／2」の印記のみ。蟲損なし。

鍼灸書。目錄は書名を「醫鑑」と著錄するが、「醫鑑鍼灸」が適切。『東醫寶鑑』の摘要だらう。

察病要訣 四〇張。金璕鴻著。在田堂書鋪一九三〇鉛活字本、一一一·八×一五·七cm。序、

察病要訣

手足麻痺風與寒濕足膝寒冷命門火虛 五心煩
熱心腎之熱 心肝二臟陰中之陽尙恐其有餘肺
脾腎三臟陽中之陰尙恐其不足 頭面諸陽之會
胃隔二火之至 頭無冷痛腹無熱痛舉大概而言
也 頭頸中結核是謂瘡癩 面病全屬胃眼病本
無寒 凡有腹痛通痢爲上 諸般腰痛悉有腎虛
血分病兮不痛氣分病分乃痛 痛者爲實不痛
者爲虛 虛者補於其母實者瀉於其子 其曰腎
者有補無瀉 心出血肝納血肺出氣腎納氣 腎

京年(一九)〇〇)……金璣鴻。韓圖東古一。
八七三頁、한고朝 68-37、三木未著錄。
内容は一部を除き鍼灸の醫學全書だが、
書誌調査は割愛した。

【脈論・診斷・藏象】

臓腑總論 七〇張。筆寫本、一九・八×一
九・五cm。行字數不定。卷末、上書金寧東
冊。古 7670-23、三木未著錄。

朝鮮寫本一冊、無帙。朝鮮五鍼眼原裝、光澤茶色厚手押目紋様表紙。表紙に外題なし。
見返しに「臓腑總論」を墨書。序・目錄なし。本文卷首に「臓腑總論」の篇名、以下本文
一巻。跋なし。丁寧な漢文寫本。ハングルなし。料紙は黃變した朝鮮中葉楮紙、無界、無
邊、無魚尾。每半葉、一四行二三二字、小字雙行。識語なく、墨筆の點・書き入れあり。二
〇〇一年二月一四日に收臓の印記あり。

東垣流(王好古以降)の臓腑論と脈診の書。引用底本は中國書か。

醫學略抄 一冊三一張。筆寫本、三一・五×一〇・七cm。一一行一四字、註雙行。古
7671-66、三木未著錄。

朝鮮寫本一冊、無帙。朝鮮五鍼眼原裝、香色中手表紙。書高三一・〇×幅一〇・七cm。
外題は表紙に「白馬抄/醫學略抄」を墨書。書根の記載なし。扉に「白馬抄(朱筆)/入
門略抄(墨筆)」の記載あり。序・目錄なし。本文卷首に「臓腑總論」と題し、以下本文
は觀形察色・問症・主和叔(王叔和?)・觀病生死候歌・寸關尺定位・臓腑定位・七表八裏
九道脈名・諸脈體狀・諸脈相類・諸脈主病・諸脈相兼主病・臓腑六脈診法までの各篇が記
され、不分卷。跋なし。料紙は朝鮮厚葉楮紙で僅かに黃變。無界、無邊、白口・無魚尾、
版心記載なし。每半葉、一二行・行二四字、小字雙行・行二四字。朱點、墨筆書き入れあ
り。「古 7671-66」「古 7671-66」「국립중앙도서관/장서인」(國立中央/圖書館/藏書印)」およ
び中央圖書館の圓印で中央に「1996·7·29\75022」の藏印記あり。蟲損なし。

『醫學入門』より上記の各篇を抜抄した書。古びからすると一九世紀後半(～一〇世紀
前半)の寫か。ウェブデータベースは書名を「醫學略抄」に著錄するが、「醫學〔入門〕
略抄」が適切。

【仲景書・傷寒】

仲景張先生傷寒纂要 一卷一冊。筆寫本、三〇・一×一〇・〇cm、一〇行一四字、無魚尾。
表紙書名、傷寒六經編。韓圖東古六・七一〇頁、古 7650-13、三木未著錄。

仲景張先生傷寒纂要

當聞病皆起於傷寒治莫精於仲景一百十三方如水有源徐不適汗吐下滲和解溫補總方以變化之也三百九十七法如衣有領裏虛寒氣惜半全書而微益支離記性拙而聊從簡省姑以六經言之

太陽則頭疼身熱脊強

此太陽正病也以後凡言太陽證即頭疼身熱脊強也凡言表

證者亦卽太陽證也各經倣此陽從下起三陽之長曰太陽脉

尺寸俱浮緊傷寒浮緩傷風太陽受病當二百發以其脉

上連風府故頭項背腰脊強頭者諸陽之會氣病則麻痺

則痛身熱者寒客皮毛鬱閉其陽而後發熱陽雖人身正氣

也」三百九十七法如衣有領「不適陰陽表裏虛實而已」。惜乎、全書亡而後益支離、記性

拙而聊縱簡省、姑以六經言之」の一文を冒頭に記す。以下、要點を擡頭で「太陽則頭疼身

熱背強」、それへの解説を低一格で記す。全文は不分卷で一冊、漢文に Idu 文字を傍記す

る。書末の一文は「右一段論瘥證危證死證及婦人傷寒」で終わり、跋なし。料紙は纖維の

交じる朝鮮中葉楮紙で、黃變なし。無界、無邊、白口・無魚尾、版心の記入なし。毎半

葉、一〇行・行二五字、小字雙行。識語・書き入れ等なし。「한국서원장서인」

(國立中央／圖書館／藏書印)」「古 7650／13／1 (2)」および中央圖書館の圓印で中

央に「1983・2・9／50934～5」の藏印記など。

『醫學入門』卷三の「仲景張先生傷寒纂要」を抜粹した書で、傷寒論に基づく治法を簡便に述べる。古びはなく、一九世紀後半以降の筆寫。奎章閣の古 615.135-Y52p 『編註醫學入門』は卷首に「編註醫學入門外集卷之三」と題し、以下本文は「河間劉先生溫暑纂要」「仲景張先生傷寒纂要」からなる。**韓籍に配したのは誤認。漢籍に移動すべし。**

傷寒摠法 一冊四一張。筆寫本、三十五・〇×一三一・四三。一一行三〇-三一一字、註雙行。韓圖東古六・七〇八頁、古 7671-57 三木未著錄。

朝鮮寫本一冊、無帙。朝鮮五鍼眼原裝、黃色中手表紙。書高三五・〇×幅二一・五 cm。外題は表紙に「傷寒摠法」および所收篇名を墨書。書根の記載なし。序・目錄なく、本文卷首に初篇名の「傷寒」を記し、以下本文は不分卷三一葉。また「濟衆新篇(ママ)傷寒抄」六葉、「集方解抄」三葉、「傷寒六經症藥」一葉あり。跋なし。料紙は朝鮮厚葉楮紙で、やや黃變する。無界、無邊、白口・無魚尾、版心記入なし。每半葉、一二行・行二九～三三字、小字雙行。識語なく、傷寒摠法部分は全紙に朱點と墨筆の書き入れあり。

「한국서원장서인」(國立中央／圖書館／藏書印)」「古 7671／57」および

中央圖書館の圓印で中央に「1990・4・4／64373」の藏印記。蟲損なし。

傷寒治療の要點を概説した書。古びからすると一九世紀の筆寫か。書名は「傷寒摠法附衆新編傷寒抄・集方解抄・傷寒六經症藥」が適切。

朝鮮寫本一冊、無帙。朝鮮五鍼眼

原裝、香色厚手表紙。書高三〇・五

×幅二一〇・四 cm。外題は表紙に「傷

寒六經編 乾(坤)」を墨書。書脳

に「共一」、書根に「一(1) 六

經」を墨書。序・目錄なし。本文卷

首に「仲景張先生傷寒纂要」と題

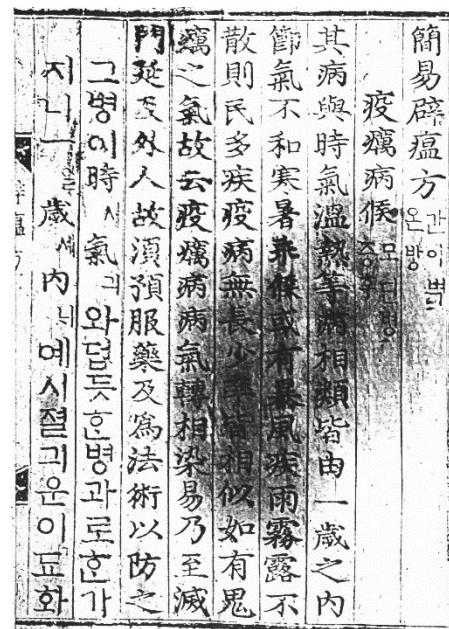
し、「嘗聞病皆起於傷寒、治莫精於

仲景一百一十三方。如水有源「不過

汗吐下滲和解溫補、總方以變化之

【疫病】

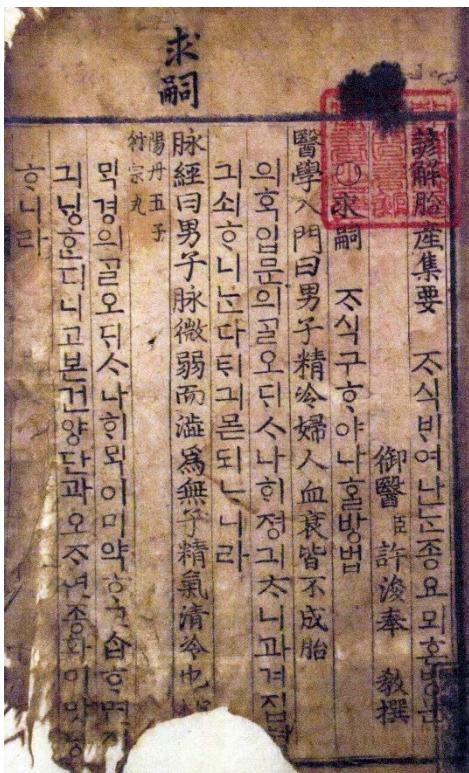
簡易辟瘟方。(朝鮮) 金希壽等受命編。乙亥字本。35mm。序、嘉靖四年乙酉(一五二五)……
金希壽奉教謹書。韓圖東古二・一三〇〇頁、十五M7672-2、三木朝三八。



醫院の朴世舉に命じて編纂させたとある。疫・時氣・鬼魅・四時溫疫傷寒・疫癘・溫疫・鬼神・妖氣への治法がある。また嘉靖二〇年(一五四二)の權應昌序三葉あつて、漢字・ハンブル交互通の「牛馬羊猪染疫病治療方」一卷を附録し、治法には本草・事林廣記・便民圖纂・山居四要の引用がある。跋なし。有界、四周雙邊、白口・雙内向花魚尾、魚尾間に「辟瘟方(牛疫方)葉次」を入れ、識語なし。「養松」「佐伯氏毛利／高標〇〇〇／藏書畫之印」「帝室／圖書／之章」の藏印記、「7047/1/38」の藏書票あり。

傳染溫疫の治法書。佐伯藩舊藏、宮内廳書陵部藏本のマイクロ。目録は「簡易辟瘟方一卷・牛馬羊猪染疫病治療方一卷。(朝鮮) 朴世舉等受命編。序、嘉靖四年乙酉……金希壽奉教謹書。附錄序、嘉靖二〇年……權應昌次知啓依允」と著録するのが適切。

【婦人科・産科】



諺解胎產集要 一冊九一張。許浚撰。一六〇八活字本、三四・一×一三・〇cm。四周雙邊、半郭二五・二×一七・二cm、一一行二〇字、註雙行、內向三葉花紋魚尾。
寶物第一〇八八號。內賜記、萬曆三十六年 日／内賜行大司成金功諺解胎產集要／命除謝恩／右承旨臣朴〔手決〕。印記「宣賜之記」。韓圖東古二・八七七頁、한고朝 68-88、三木朝六五。

朝鮮活版一冊のコピー本によ

朝鮮活字版一冊、マイクロ調査。日本四

鍼眼改裝。外題は四周雙邊の題箋に「簡易辟瘟方」を墨書。嘉靖四年の金希壽「簡易辟瘧方序」漢文一葉・ハンブル漢字交じり文二葉、目録なし。本文卷首に「簡易辟瘧方」と題し、以下本文は漢字とハンブルを交互に記して一卷。序には甲申(一五二四)秋に關西路から始まり乙酉(一五二五)春にも止まない傳染疫病の治法を、内

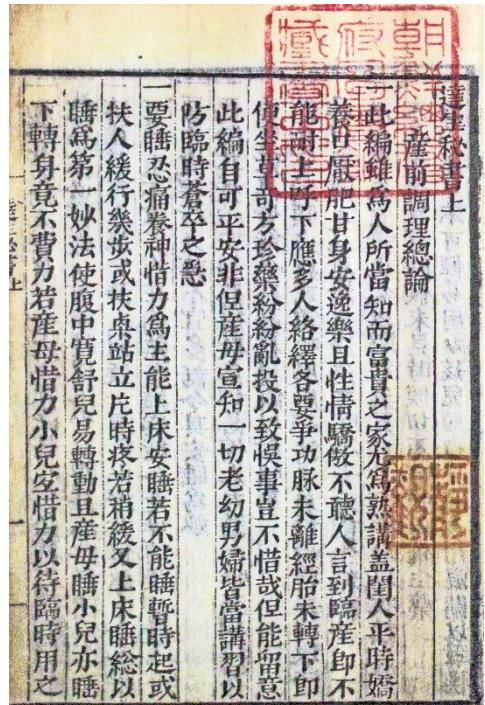
四) 關西路から始まり乙酉(一五二

五) 春にも止まない傳染疫病の治法を、内

る。装钉・表紙・高幅未詳。外題は表紙に「諺解胎產集要」を墨書。見返しに「萬曆三十六年（一六〇八）日／内賜行大司成金功諺解胎產集要／命除謝口（恩）／右承旨臣朴口（手決）」の内賜記が墨書される。序なく、目録五葉。本文卷首に「諺解胎產集要 ハングル字／御醫〔臣〕許浚奉 教撰」と題し、以下本文は出典を頭書して漢文・ハングル文を交互に記し一巻。跋なく、書末に「萬曆三十六年正月 日内醫院開刊／監校官通訓大夫行内醫院直口（長？）（以下缺）」の刊記。料紙未詳。有界、四周雙邊、白口・雙内向花魚尾、魚尾間に「諺解胎產集要 葉次」を印す。毎半葉匡郭、縱二五・四×横一八・三cm、一一行・行二〇字、小字雙行・行二〇字。上欄に項目名の書き入れあり。識語なし。「宣賜／之記」「朝鮮總督／府圖書館／藏書之印」「〔疎開／圖書〕第581號」、また圓印で外周に「朝鮮總督府圖書館・圖書登錄番號」中央に「昭和16・9・25／廿20645」の舊藏印記、「古785／3」「ナムヨンド／도서관／장서도」（國立中央／圖書館／藏書印）および中央圖書館の圓印で中央に「1987・11・13／59633」の藏印記、「朝／68／88」の舊藏書票あり。蟲損未詳だが、破損は甚大。

産科の書。活字は恐らく金屬鑄造（乙亥字？）で、字様に明永樂の風がある堂々たる大字。貴一三五としても登録される韓國の財寶指定書。

達生秘書 一二巻一冊。（朝鮮）黃瓊編。木板本、111・1×16・四cm。韓圖東古一・八七八頁、한국 68-99, 一一木末著錄。



朝鮮版一冊、錦布貼り帙に收める。

朝鮮五鍼眼原裝、香色中手押目紋様表紙、絲切れ。書高二一・〇×幅一六・四cm。外題は四周雙邊の題箋に「達生秘書 全」を印刷。書根の記載なし。見返しに茨の邊で「達生秘書」の封面。歳在著雍敦牂（戊午、一八五八年）と題し、以下本文二巻。書末に從

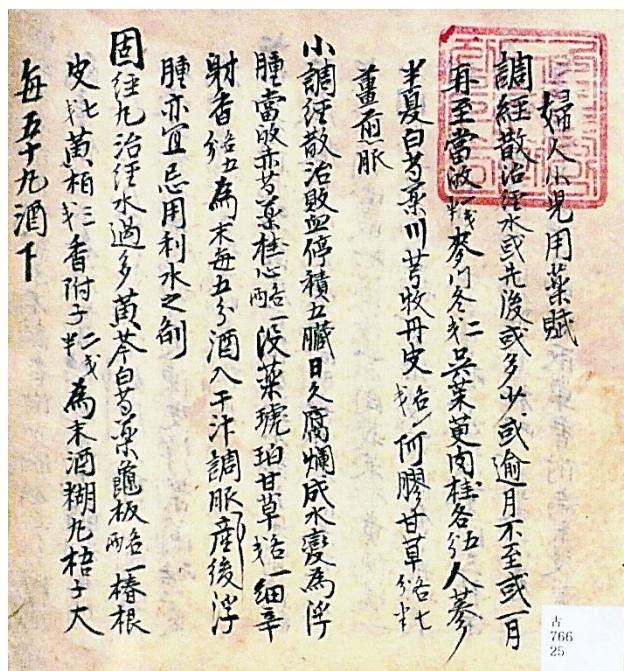
維（戊）大律陽至月上浣の友鶴子「跋」一葉。料紙は朝鮮薄葉楮紙で僅かに黃變。有界、四周單邊、白口・單白魚尾、魚尾下に「達生秘書上（下）葉次」を刻す。毎半葉匡郭、縱一七・六×横一二・九cm、一二行・行二四字、小字雙行・行二四字。一部に朱引きあり、識語なし。「靜／觀」「古朝／68／99」「朝鮮總督／府圖書館／藏書之印」、また

圓印で外周に「朝鮮總督府圖書館・圖書登錄番號」中央に「昭和17・9・5／廿23218」の舊藏印記、「朝／68／99」「朝鮮總督府圖書／番號内／冊數」「朝鮮總督府圖書／記番號」

III. / 冊數」の舊藏書票あり。
産科の書。一九世紀の古びなので、一八五八年の序刊本だろう。

婦人小兒用藥賦 三七張 一九一五筆寫本 二一・〇×一〇・一cm 行字數不定 古766-25

三木未著錄。



一定の書式で筆寫するので、何かの書から轉寫したらしい。

小綱經散治敗血停積立臍日久腐爛成水瘻為浮
腫當取赤芍葉桂心各一錢藥琥珀甘草梢一細辛
射酒燒末每五分酒入干汁調服。症後浮
脹亦宜忌用利水之劑

因往九治往往水過多黃芩白芷桑螵蛸板各一椿根
皮七黃柏三錢附子半錢為末酒糊丸梧子大
每五十九酒下

無帙。朝鮮七鍼眼原裝、香色厚手表
紙。表紙に外題「婦人小兒用藥賦」を墨
書。序・目錄なし。本文卷首に「婦人小
兒用藥賦」の内題、以下本文一冊。跋な
し。幅廣の朝鮮寫本で、前半が婦人、後
半が小兒篇で、處方を列舉して主治を漢
文で記し、病門には分けない。料紙は朝
鮮中葉楮紙、無界、無邊、無魚尾。每半
葉、一二行10字、小字雙行。識語・書
き入れ等なし。舊藏印記なく、1000
年2月14日に收藏の印記あり。蟲損な
く、版心切れ。

春鑑 二卷一冊。李永春著。一九一七新鉛活字本、李周榮。一六・八×一八・八cm。四周雙
邊、半郭。一一〇×一六・一cm。界線、一二行一八字、注雙行、上下向一葉花紋魚尾。序、
丙寅（一九一六）……鄭澄。刊記、昭和一年（一九一七）九月十日發行。7671-54、二木未著
錄。

春鑑・坤 一冊。李周榮著。義城印刷所一九一七鉛活字本、一七・四×一九・〇cm。韓圖東
古二・八七三頁、한국 68-32、三木未著錄。

同一書で、婦人科・小兒科と子孫を作るための書。書誌調査は割愛した。